



扇

扇

扇

十五節下



扇

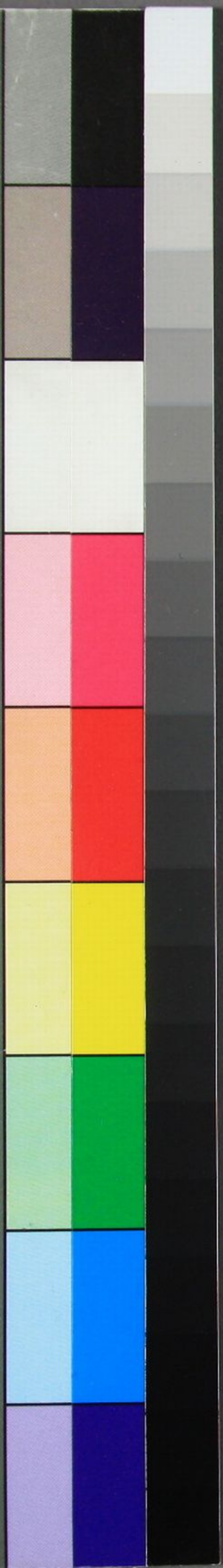
のま

胡蝶

源氏

十五節上





源氏

胡蝶

のまね

雨

雨

十五福上



元曜文庫

室町源氏胡蝶
卷柳亭種彦
化梅隣馬圖

十五卷上



古き小唄の囃語よてみくまうふはこゝろやきこゝろえとりの義のりやこ
女の問ふ小言人もせを頼面ゆい折何のこゝろと心得一が僕代と其の義を
説けくく蝶々の簪を髪下まど小挿こむ小急ぎの髪みひた懸らんよう
かゝ念を入る語蝶の止る葦とさる蝶搔頭の鯉青もや花ありと博識
めけて演舌く小娘と合點せさる餘よゆく考とまの無益の疑疑くる
ものまて番をも遊牝と混めく鏢鉸さく猥語のや小憚る人もあり
とど百人一首のさるをさる教骨牌の時固く草冊子の親子の中でも
讀むる爲よきせといふも余のせとせと雅言を用いし濡場とありて愛形も
あゝとかの釘の墮落筋充たさる支話もこれを竟る本文の蝶々徐よ
寛々と長物語を御心とくそる覺えさせし人もあり

慶應四年新春刊行

柳亭種彦





舞妓
瑣玖那

大唄をうたふ
流芳子の軒の
和ぬふりく

圖



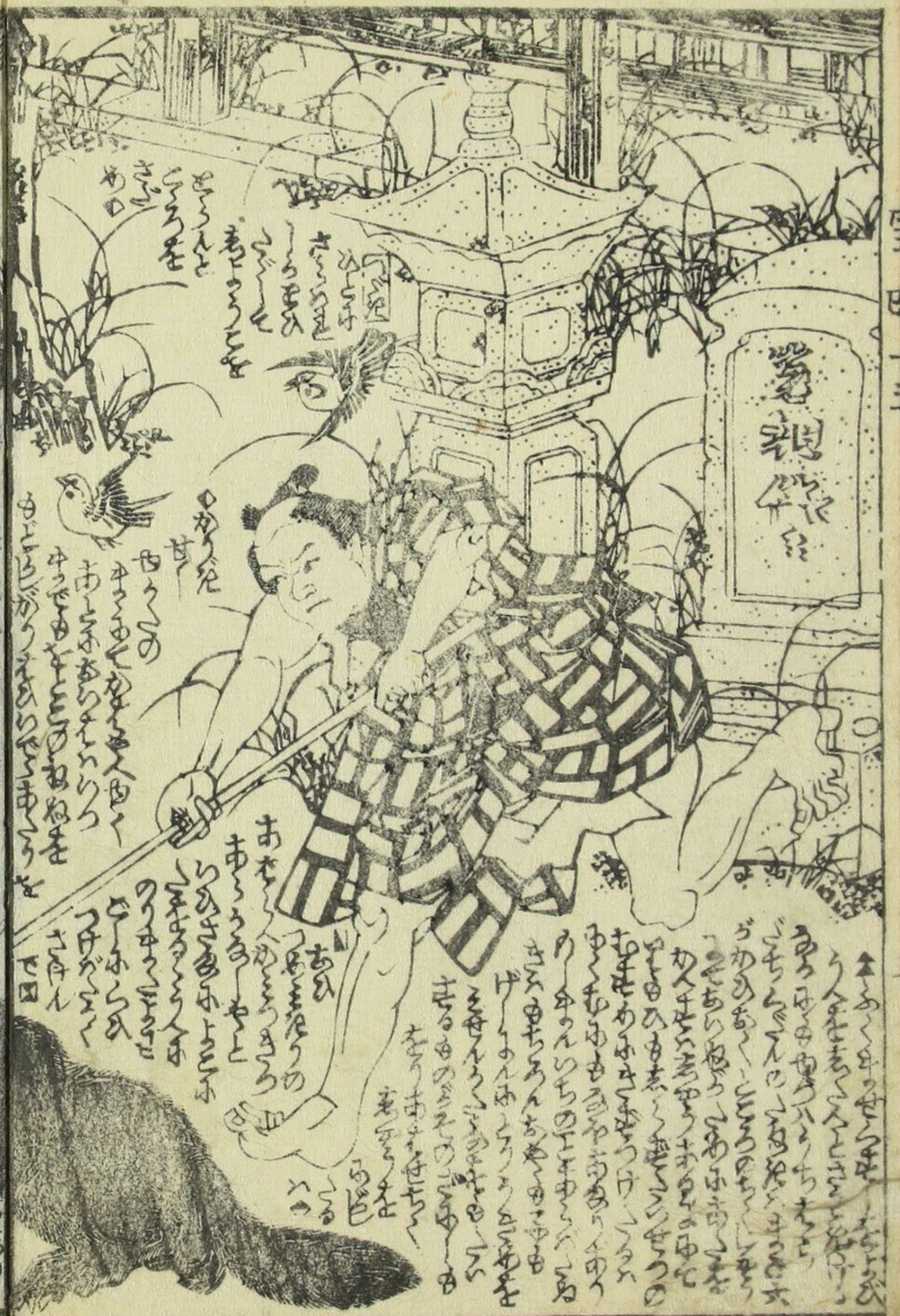
燕麥尾

五月十四日
御宇の由見

網牽香
盤物の



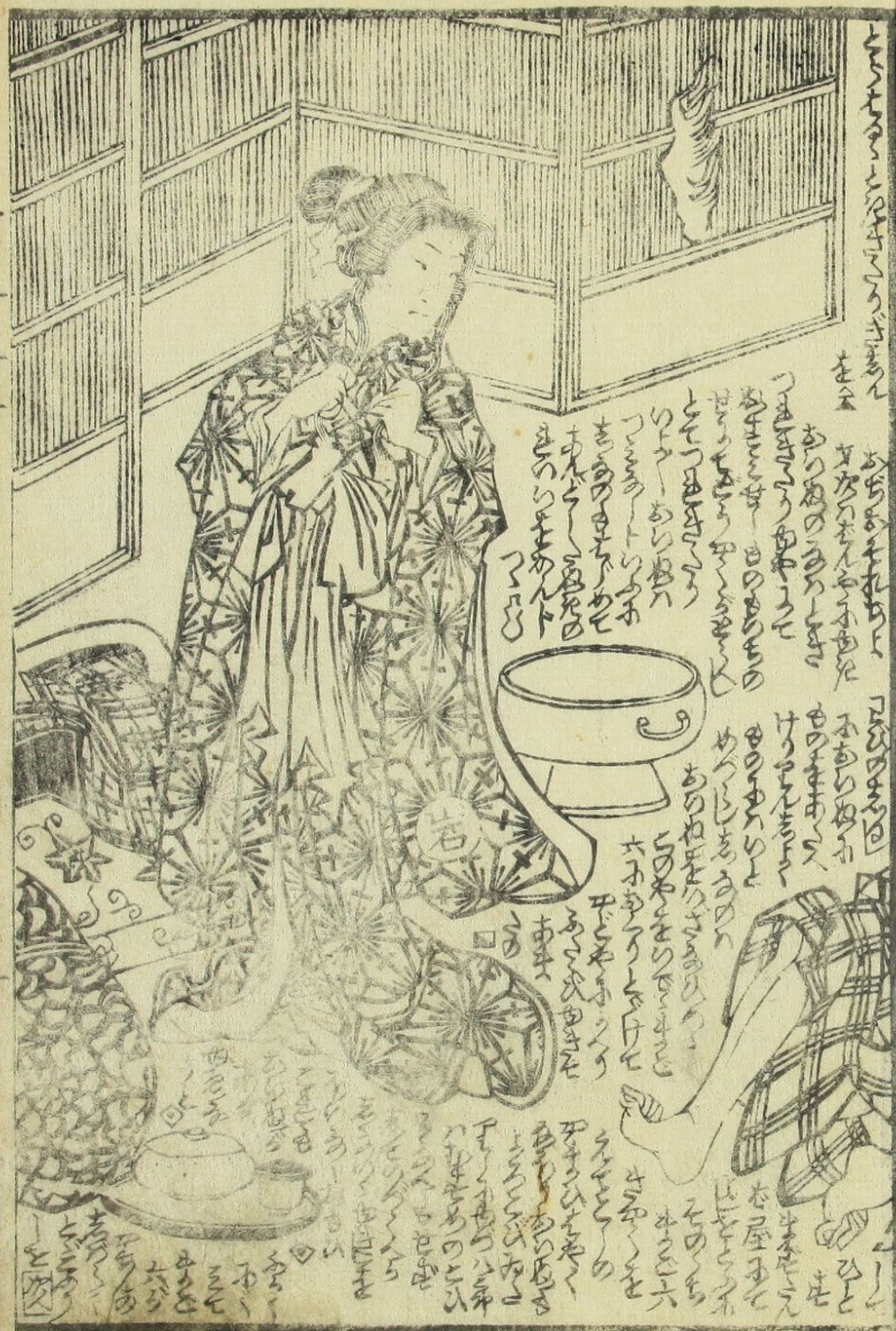
Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a play script, located below the illustration on the left page.

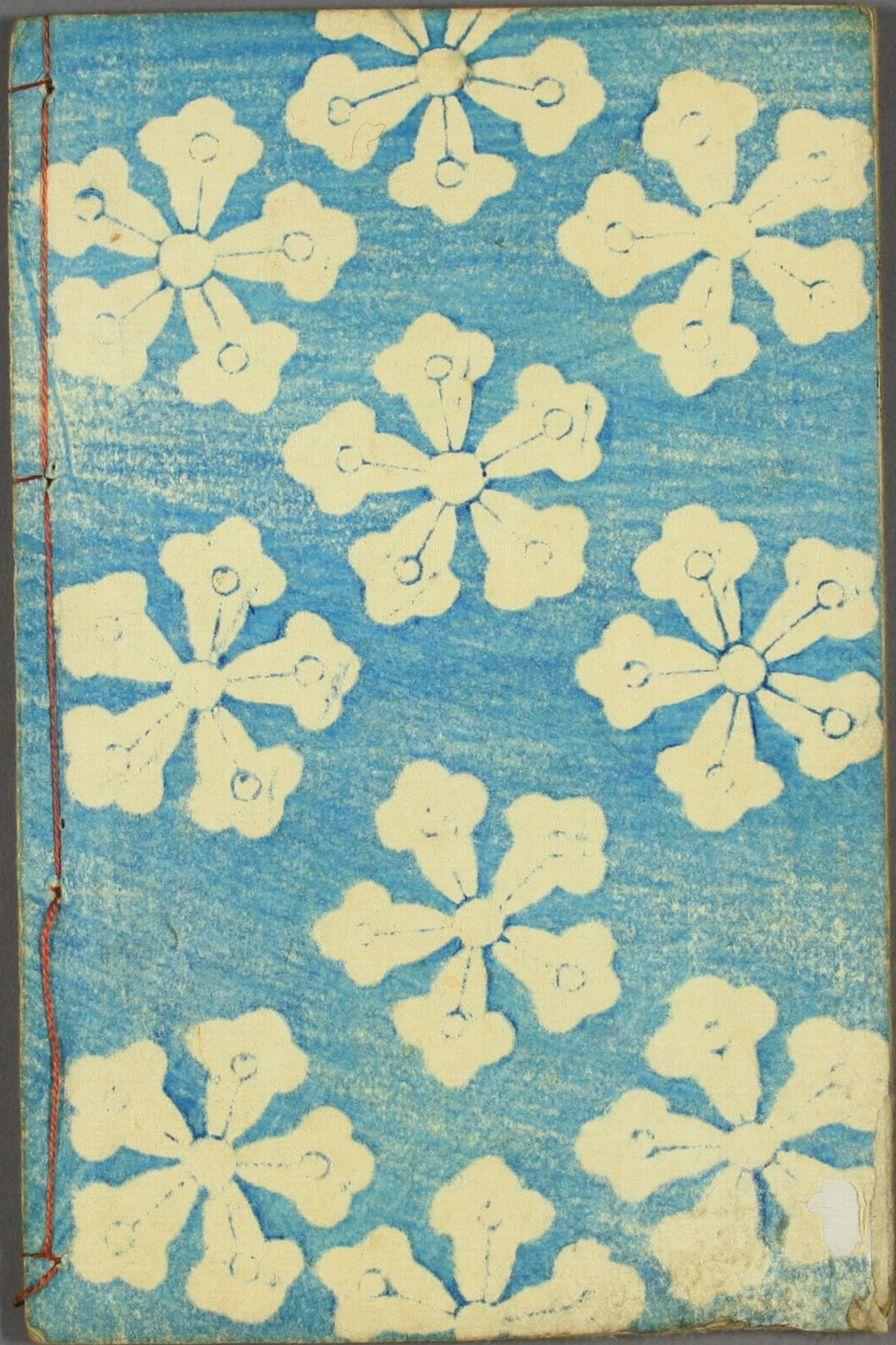


Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a play script, located below the illustration on the right page.

Vertical text on the left edge of the page.

Vertical text on the right edge of the page.







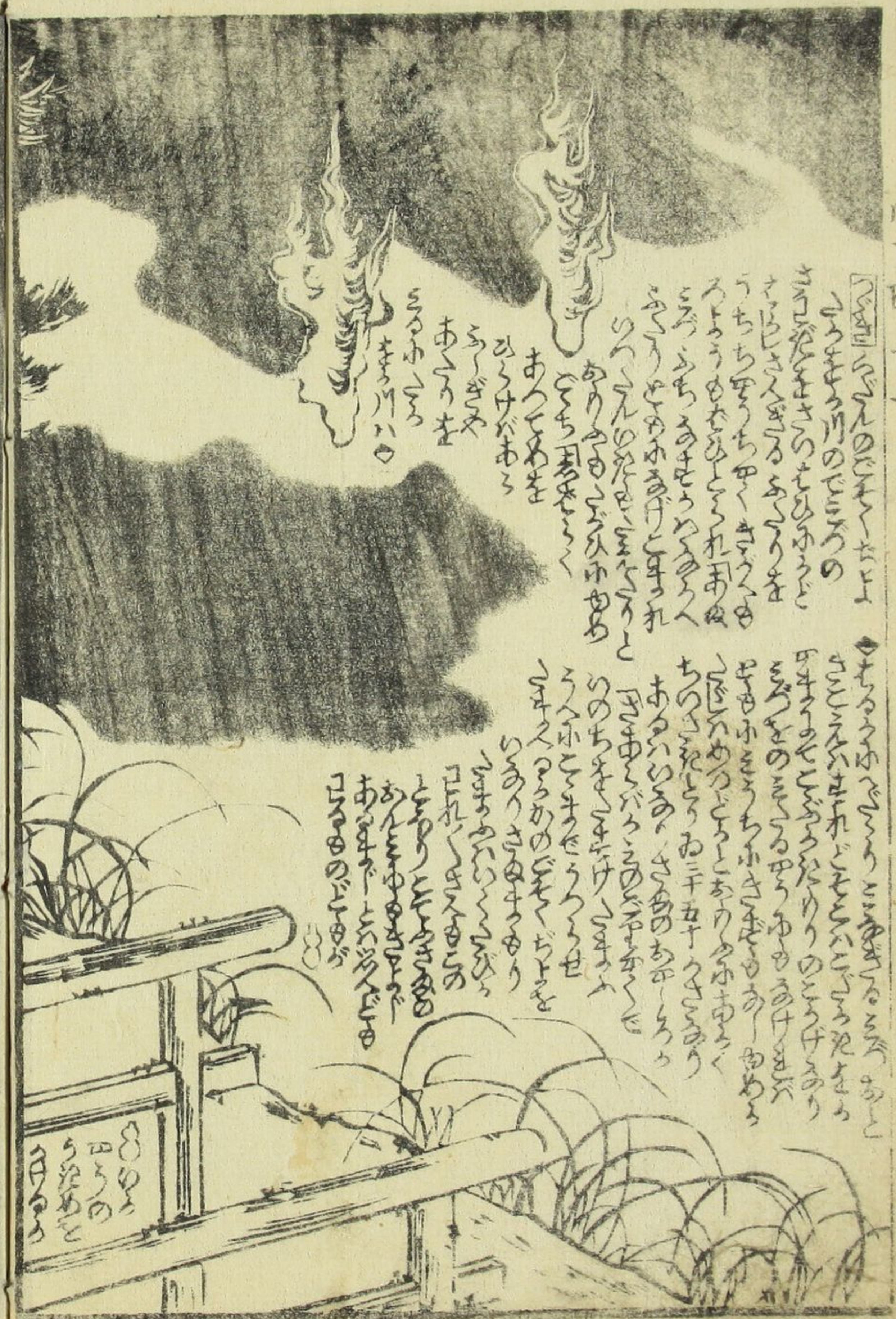


あはれなる
おのれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる



あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる
あはれなる



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style.



Vertical columns of handwritten Japanese text, continuing the narrative or commentary from the adjacent page. The text is written in a cursive style.



あつちのきぬは
まじろけり
あつちのきぬは
つらねれ

あつちのきぬは
まじろけり
あつちのきぬは
つらねれ



あつちの
きぬは
まじろけり

あつちのきぬは
まじろけり
あつちのきぬは
つらねれ

あつちのきぬは
まじろけり
あつちのきぬは
つらねれ

新局九尾傳

七編より 爲水春水作
一編より 梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶巻

二編 種彦作
一編 國貞画

假名情談戀睡倉

四編 如泉作
大編 國貞画

童謡妙々車

二編 種彦作
一編 國貞画

薄倂幻日記

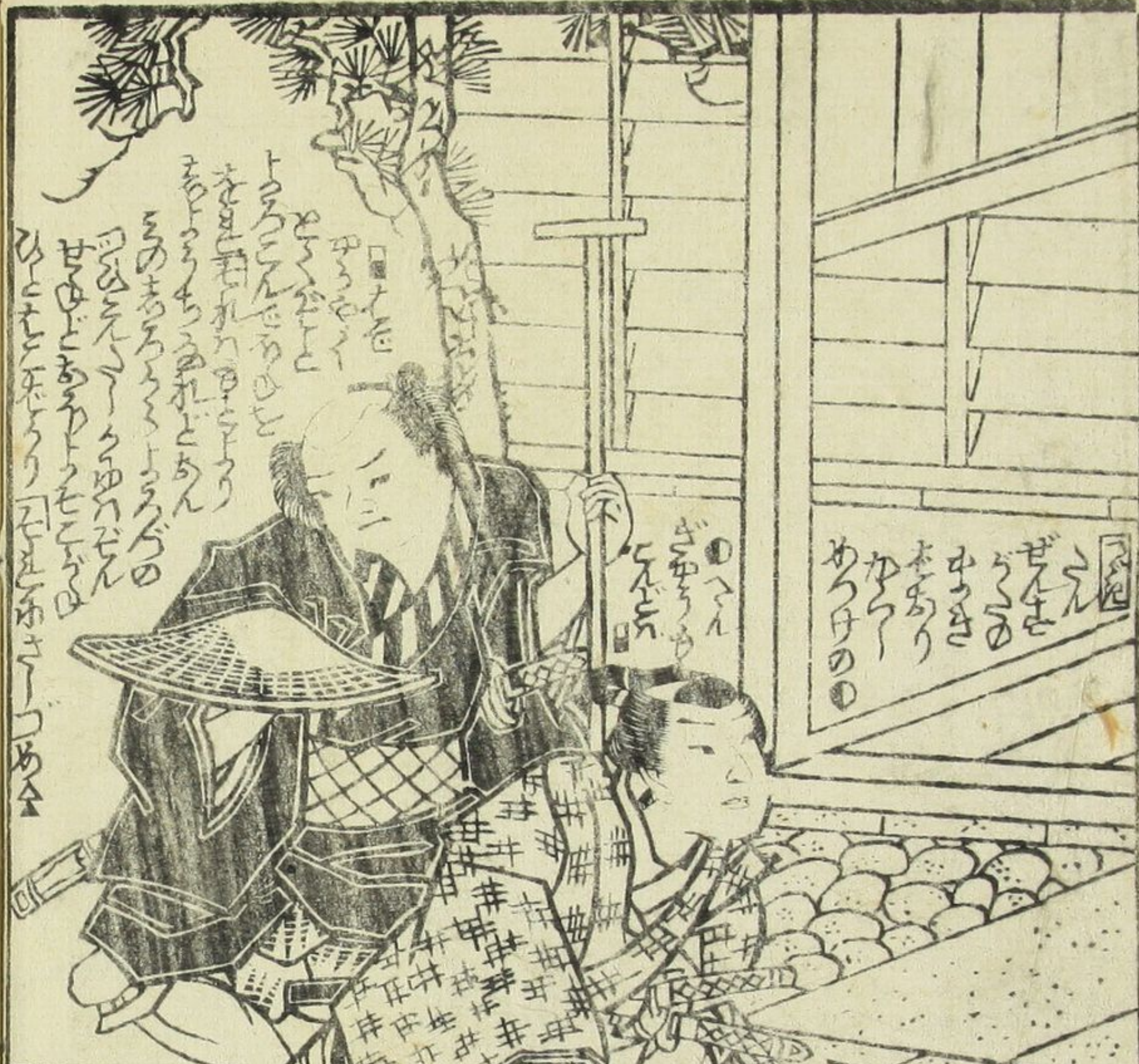
二編 春水作
一編 國貞画

しほり草飾譚

二編 種彦作
一編 國貞画

柳亭種彦作

△この世のわが世があらたに
うらやまのちかやうにあらたに
うらやまのちかやうにあらたに
わが世をあらたにあらたに
ひたひたの上下とのあらたに
あそびをあらたにあらたに
あそびをあらたにあらたに



歌川國貞画

版元 紅英堂欽白

筆法四國聞書

二編 種彦作
一編 國貞画

明鴉墨画通補

二編 種彦作
一編 國貞画

花封苔玉草

一編 種彦作
大編 國貞画

犬傳犬の双紙

二編 柳亭録
一編 國貞画



南傳馬車 葛屋士口藏叔

